

ファシリテーション演習 ～ダイナミクスからの対話の見立て～

講師：本田恵子氏（早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授）

日時：4月19日（日）9時～12時

形式：早稲田大学中野国際コミュニティプラザ 及び ZOOM によるオンライン研修

新年度の多忙な時期だからこそ一度立ち止まり、前年度の実践を振り返ったり、目の前の子どもたちの姿を見立てたりすることができるよう、新たな試みとして5月の総会前に番外研修会を開催しました。前半の講義でファシリテーションの基本を確認し、グループで問題解決の話し合いを体験しました。

○グループダイナミクスと MIT を見立てよう

本田先生から、ファシリテーションの基本についてご講義いただきました。対立の解消に向け、ファシリテーターは、まず、一対一で受容的にそれぞれの話を聞き、話し合いの場を設定する支援をします。話し合う中でそれぞれのコミュニケーションのタイプや愛着の反応が基本の4タイプのどれにあたるのかを見立てることや、それぞれに合わせた支援方法をグループで練習しました。

ファシリテーションの練習をする中で、グループ内で自分がどの機能を発揮しやすいのか、気付けるとよいですね。

M (Maintenance) :グループの維持機能

I (Individual needs) : 独立した個人として存在する機能

T (Task) : グループを進める機能



ファシリテーターは、どんなトラブルが起こるのか予測しながら話し合いを進めていきます。そのためには、行動観察が大切です。自分の立ち位置や目標を決めて臨み、出てきた MIT を言葉にしてフィードバックします。議論が拡散しないように明確化したり、深めたりしながら終結へと導いていきます。

○参加者から（一部抜粋）

- ・演習を通して、ファシリテーターには傾聴や受容だけでなく、対立や沈黙を避けずに向き合う姿勢が重要だと学びました。自分の不安や回避傾向を振り返ることで、グループを捉える視点と、場に緊張を返す介入の大切さに気づきました。今後は自己覚知を深め、実践に生かしたいです。
- ・ファシリテート役を一回務めました。憤りや不満が表出している方の意見ばかりに共感の姿勢を見せ、他の人の意見を後回しにしてしまいました。議論を場に戻すだけと役割を分かっている、手立てが浮かばず言葉が出てこなかったです。MやTもできればせずに介入して話し合いを活性化すること。グループダイナミクスが起こった時にルールを提示すること。これらを心に留め、今後の話し合いの場に臨みたいと思います。

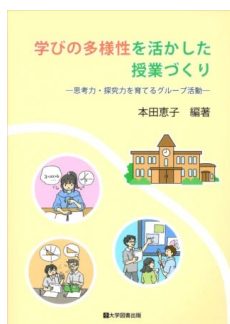


校内での対立を避けて通ろうとする現状を以前から感じていましたが、対立に立ち向かう勇気を持ちたいと思いました。最近関わるようになった子どもが、「友達はあるよ。けんかするけど、だからいいんだ。」と話をしてくれたことが、今日の話題とつながり、安全にけんかできる環境の一つになることができるよう、もっと学んでいきたいと考えました。

○参考文献



基本の個別面接技法



グループファシリテーション力の解説



学校の先生向けの教育心理学の教科書

◎早稲田大学インクルーシブ教育学会 2026 年度総会 記念講演会◎

「多様な学びを支える学校づくり～学びの多様化学校の実践から～」

講師: 岩田 明 氏 (鎌倉市立由比ヶ浜中学校 分校長)

日時: 2026年5月23日(土) 18時00分～19時30分

会場: 早稲田大学 14 号館 604 教室および Zoom によるハイフレックス開催

参加費: 無料 (学会員限定)